

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

栽培していたものが逸出して広がりました。鹿児島県では緊急防除種に指定され、奄美群島で確認されています。在来木本の駆逐やギャップの占拠などの生態系への影響が確認されています。分布の拡大を防ぐために、植えないようにしましょう。自己の管理地に生えている場合は、抜き取りや伐採により除去しましょう。

1 基本情報

分類		
目・科名	トウダイグサ科	
種名(亜種名)	アカギ	
学名	<i>Bischofia javanica</i>	
環境省カテゴリー	緊急対策外来種	
県カテゴリー	緊急防除種	
由来	国内由来外来種	
侵略的外来種番付表	小結(島嶼)	
番付表掲載の理由	県民に周知することにより、被害を防止する効果が高いと考えられるもの	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	日本の侵略的外来種ワースト100	
侵入・定着の状況		
自然分布域	琉球列島～中国～東南アジア、オーストラリア、ポリネシア	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	栽培逸出	
県内の侵入分布	奄美群島	
全国の侵入分布	小笠原諸島、奄美群島	
生態学的特性		
生態	大量の果実をつける。実生の数と実生の生存力が強く、光条件がよくなると森林を埋め尽くす。	
形態	高さ25mに達する常緑広葉樹。 葉は3出複葉で互生。複葉についている小さな葉は卵形～卵状楕円形。多数の緑色をおびた花をつけるが、長さは葉よりも短い。果実は熟して褐色となり3～4個の種子がある。	
繁殖形態	花期は2～3月。 雌雄異株。果実は鳥などにより散布する。	
生息環境	亜熱帯～熱帯の谷部のやや湿った場所に生育する。	
特記事項	—	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①在来木本を駆逐。生態系に影響（ギャップの占拠）。
県内で特に予想される被害	県内の在来木本を駆逐。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①在来木本を駆逐。 ②栽培されていたものの逸出。
3 対策	
アカギとの関わり方	分布の拡大を防ぐために、植えないようにしましょう。自己の管理地に生えている場合は、抜き取りや伐採により除去しましょう。
見分け方	アカギは、高さ10～20mの常緑の高木。果実は球形で、褐色または帯赤色に熟し、房状に垂れ下がる。 なお、県内の侵入分布である奄美群島に本種に類似した在来木本はない。
見かけやすい場所・時間	谷部のやや湿った場所に生育する。
防除方法	雌木を重点に、皆伐して別の樹木で造林。環状剥皮、萌芽抑制剤の使用。実生の抜き取り。幼木の抜き取り。
防除の取組事例	東京都では、小笠原諸島での駆除を実施している。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/80940.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 東京都小笠原支庁ホームページ 外来木本植物対策 http://www.soumu.metro.tokyo.jp/07ogasawara/nature/grapple_introducedspecies.html